

㊼ 東宮殿下行啓記念碑



現在の弘前大学北溟寮のある土地は、もともと「りんごの神様」と言われた外崎嘉七氏（安政 6 年（1859）～大正 13 年（1924））の農園地「向陽園」があった場所です。外崎氏は、りんごの袋かけを考案し、病虫害による青森県りんごの生産の危機を乗り越えました。また、ボルドー液散布による殺菌、いらぬ枝を切り落とす剪定という技術などを考案し、その技術は今も受け継がれ、「青森りんごの中興の祖」とも言われています。

明治 41 年（1908）9 月 24 日、東北巡啓中の東宮殿下（明治天皇皇太子嘉仁親王のちの大正天皇）が大開野の第八師団閲兵の後「向陽園」に立ち寄り、りんご栽培に益々努力するよう激励しました。明治 42 年（1909）5 月、外崎氏は同業者の目標とすべく、この碑を自費で建立しました。上の横書きの「鶴駕份憩」の題字は、弘前藩第 12 代（最後）藩主で、明治 2 年（1869）6 月の版籍奉還後、弘前藩知事となった津軽承昭（つがるつぐあきら）による書です。縦書き碑文の撰文と書は、明治天皇に仕え東宮侍講も務めた本居豊穎（もとおりとよかい）によるものです。

〔引用文献〕

1. りんご王国「りんごあるある」ホームページ。
<http://www.ringo-kingdom.com/ringoaruaru/20160323/348.html>
2. 本間正行（2004）. 学園だよりキャンパス散策「弘前大学構内の記念碑」, 143, 32.